

3万6千人が受検、小中は減少、高大は増加 ＝平成29年度第1回日本語検定＝



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」(略称・語検)の平成29年度第1回(通算第21回)検定が、6月9日(金)と10日(土)に行われました。国内は47都道府県88カ所の一般会場と629カ所の準会場、海外はアメリカ(グアム)、イタリア(フィレンツェ)、フランス(ビルヌブダスク)、韓国(ソウル)の4カ国4カ所で実施され、3万6132人が受検しました。

「語検」は、敬語、文法、語彙(ごい)、言葉の意味、表記、漢字の6つの領域にわたり、日本語を正しく使うことができるか、一人ひとりの能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、7月上旬に語検ホームページで合否速報が発表され、同中旬には個人カルテと認定証が発送されます。

今回の受検者数は、1級(社会人程度)682人、2級(大学卒業程度)3257人、3級(高校卒業程度)1万7741人、4級(中学校卒業程度)7189人、5級(小学校卒業程度)3262人、6級(小学校4年修了程度)3074人、7級(小学校2年修了程度)927人。前回と比べて7級から4級までの小・中学校は合計で3割ほど減った半面、高校・大学・社会人の3級から1級までは2割ほど増えたのが特徴です。

語検事務局は、詳細な分析はこれからとしたうえで、7級から4級までが減ったのは、授業が始まって日が浅い6月から11月に、受検の時期を移す傾向が強まったのかもしれないと推測しています。一方、高校生から社会人までの幅広い年齢層が挑戦する3級の受検者は3割増えており、「“社会人基礎レベル”の日本語力を身に付けたい」という意欲は衰えておらず、語検への期待も大きいとみています。

最年長者は6級を受検した栃木県の91歳の女性、最年少者は7級を受検した東京都の幼稚園に通う5歳の女の子でした。

◆963人が受検＝東京23区会場

東京23区の一般会場となった豊島区西巢鴨の大正大学では、963人が1級から7級に挑戦しました。

梅雨の晴れ間の太陽が照りつける中、半そで姿の受検者が多く、校門をくぐると日差しを避けるように足早に会場の校舎に向かう女性も目立ちました。検定が始まる1時間前には、教室の扉が開いて入場。着席すると問題集を開いたり、筆記用具を点検したりするなど準備を整える姿があちこちで見られ、緊張感が漂っていました。教室の大きさに合わせて30～90人ずつ、級ごとに分けられた会場では、開始15分前に監督者から注意事項の説明があり、受検者は静かに耳を傾けていました。

◆日本語の魅力、次世代にも伝えたい

受検の動機などをうかがいました。最初は2級の会場です。

中・高校の国語と小学校の教員免許の取得を目指している北区の男性(21)は教育学部に在籍する大学3年生。サークル活動で落語を研究するうちに日本語の奥深さや面白さを知り、「ボキャブラリーを増やしたい」との思いから語検に初挑戦。「子どもたちにも日本語の魅力を伝えられたらと思っています」と就職戦線をくぐり抜けた先にある教員としての活躍に思いをはせていました。

次ページへ 

◆「プロの技」発揮できる人に

企業のトップなどを支える秘書やコミュニケーション能力を発揮できるホテル業界への就職を希望する大学3年の女性（21）は横浜市在住。「女性らしい気配りや話し方、マナーを身に付けた」社会人になりたいと、秘書検定のレベルアップと同時並行で初めて語検にチャレンジ。

IT技術者のご主人と一緒に埼玉県川口市で暮らす中国人の女性（32）は、自宅から東京臨海部にある大手家電メーカーの展示場に通勤。来日9年目で、国内外の訪問者に商品説明を行うのが仕事とあって日本語の会話は流暢。しかし、「貿易の仕事をしたい」という夢があり、敬語や熟語など「仕事に役立つ日本語をもっと習得したい」と初めての語検に表情を引き締めていました。



◆「自分の力を試す」ために

4級の会場では、2年前から語検に挑戦し始めたという北区の女性（85）に話をうかがいました。現役時代は編集関係の会社に勤めていたものの、年を重ねて「自分がどのくらい漢字や言葉を知っているかを試す」ために毎回欠かさず受検。7級、6級、5級と着実にレベルを上げてきたことを話す表情は明るく、若さが感じられました。

6級の会場には子どもの姿が目立ちました。新宿区の小学6年（11）の男の子は、母親に薦められて初の語検チャレンジ。「問題集をやってみたら難しかった」と小声で言いながらも、目指している学校名を口にし、私立中学への進学に意欲をみせていました。

◆「バランス重視」が特長

検定が始まると受検会場となった校舎1階のテラスには子どもに付き添ってきた母親の姿がありました。小学3年の娘さん（8）が午前6級、午後5級のダブル受検をするという文京区の母親に話をうかがいました。

2年前、小学校のPTAが主催する土曜講座の語検にご自身が申し込もうとすると、当時1年生の娘さんが「自分も受けて」と言い出し、親子で受検。初挑戦で7級を取得した娘さんは、このときに表彰されたのがうれしくて、今回で3年連続3回目の受検となったとのこと。中学校で国語を教えたことがあるという母親は、「日本語検定は（敬語や語彙など）バランスが重視されるので難しいですね」と専門家の視点で語検の特長に触れ、娘の健闘を期待していました。



（時事通信社編集委員 升谷 昇）



次回
予定

文部科学省後援事業 **日本語検定**

平成**29**年度 第**2**回（通算第22回）

一般会場 **11/11**（土） 準会場 **11/10**（金）・**11/11**（土）

申込期間 **8/1**（火） ～ **10/13**（金）